

山形縣の植物方言 (第1報)

佐藤正己

(山形大学農学部応用植物学研究室)

Masami SATO : Notes on the local names of plants collected
in Yamagata Prefecture. (1) *

筆者は先に昭和25年度現職教員認定講習会出席者の協力を得て、山形縣の庄内地方(飽海郡、酒田市、東田川郡、鶴岡市、西田川郡を含む旧庄内藩の領地)の植物方言約1千項目を集録して出版したが、今夏も同様にして最上地方(最上郡と新庄市を含む区域)と北村山郡の方言を調査することが出来たので、更に調査区域を拡げて山形縣全体の植物方言をまとめる計画をたてた。然し、山形縣の植物方言の語源や分布を知る爲には日本全国にわたつて調査しないと完全なものにならない。これは中々困難な仕事であるが、熱心な協力者によつて、ぼつぼつ他府縣の方言も集つてきたので、此等を参考にして山形縣の植物方言の性格を明かにしたいと思う。この方面に関心を持たれる諸賢の御協力を切に希望する。

(1) オーバコ (*Plantago asiatica* L.) の方言

山形縣にはオーバコの方言として四つの系統が見出される。第一は蛙に関係したもので、ビツキ(蛙の方言)グサとかビツキノハと云うのが標準で、更に訛つてビツキングサとかベツキングサとも云う。この系統は日本全国に廣く知られ、蛙の方言によつてガイロツパとかカエロツパとか色々に変化するのである。この系統の方言は、庄内地方では殆んど聞かれませんが、内陸方面(最上・村山・置賜の3地方で、全然海に面していない地域)では圧倒的に流通している。そして子供の遊戯として、衰弱した蛙にオーバコの葉をかぶせ、次の様な文句を唱えてからその葉を取去ると、蛙は元気になると信じられている。これと同様の遊びは静岡縣にもあるが、その文句は全く違つている。北村山郡南部の東郷・高崎・山口・大高根等の諸村で唱えられる文句は、山口中学校教官神尾正男氏の調査によると

[びつき(蛙)もさ、びつきもさ、何時す(死)んだ。
よべな(昨夜)の、もづくて(餅食つて)、今朝す(死)んだ。
えしや(医者)殿來たはげ(來たから)、戸をあげろ。
がらり、どん]

であるが、亀井田村あたりでは多少文句が違い、次年子小学校教官斎藤常夫氏の調査によれば、

[びつき殿、びつき殿、何時死んだ。
ゆべなの、かす(粕)くて、今朝死んだ。
医者様來たはげ、戸をあげろ。
きやらどん、きやらどん、おききのき]

* Contributions from the Laboratory of Applied Botany, Faculty of Agriculture, Yamagata University.
No. 13 (September 1951)

と唱えると云うことである。

第二の系統は子供の遊戯からきたもので、オーバコの花茎を2本互に折曲げて組合せたものを引張り合い、切れた方が負になる遊び方で、スモトリグサとかカギヒツバリ又はヒバリゴ等の方言がある。この系統も日本全国に広く分布し、しかも同じ方言でオーバコ以外の数種の植物が呼ばれていることがある。なおこの系統のもので南置賜にズイコムイコの方言があるが、これは福島縣や新潟縣のズコバコと共によく互に引張り合う感じを出している。

第三の系統は葉の外形に由来するもので、マルコ又はマリコと云う方言で、荘内地方では極めて普通であるが、内陸方面では全然見当らず、却て秋田縣に多数の同系語（マルバグサ、マルバ、マルコツバ等）がある。

第四の系統は荘内地方に最も普通に通用するツンベで、時に訛つてチンベともなるが、その語源は不明である。ツンベは新潟縣の海岸沿いの岩船郡にはあるが、秋田縣には全く無い方言で、その分布と語源は注目すべきものである。

筆者の手許にある資料を整理すると、山形縣のオーバコの方言の分布は次の通りである。（括弧の外は郡市名、括弧内は村名、*印は極めて稀な例で一般には通用しないものを示す）

カエルグサ 飽海（北俣）、西村山（寒河江）

カギヒツバリ 鶴岡*

ゲロッパ 飽海（一條）、酒田

ズイコムイコ 南置賜（玉庭）

スモトリグサ 飽海（日向、北俣、田沢、松嶺、内郷、北平田）、酒田、東田川（狩川）、鶴岡、西田川（西郷）、北村山（楯岡、東根、長瀬、小田島、山口、宮沢、横山）、西村山（谷地）、南置賜（玉庭）

ツンベ又は**チンベ** 飽海（吹浦、稻川、日向、高瀬、蕨岡、観音寺、遊佐、西遊佐、南遊佐）、酒田、東田川（余目、東栄、斎、黒川）、鶴岡、西田川（東郷、田川、上郷、福栄、念珠ヶ関）

ビッキグサ 飽海（高瀬、西遊佐、北俣、東平田）、酒田、東田川（狩川、藤島、立谷沢）、鶴岡、西田川（加茂、温海、念珠ヶ関）、最上（八向、大藏）、新庄、北村山（玉野、尾花沢、亀井田、大久保、大富、高崎、富本、長瀬、山口、大石田、東郷、横山、小田島、戸沢、大高根、楯岡、東根、宮沢、常盤）、西村山（谷地、大谷）、南村山（上山）、南置賜（玉庭）、米沢

ビッキノハ 酒田、西田川（加茂、山戸、温海、福栄、念珠ヶ関）

ビッキバ 飽海（西荒瀬）

ビッキングサ 最上（眞室川、萩野、西小国、舟形、角川）、新庄、北村山（小田島、楯岡、大倉、山口、玉野、葉山、宮沢）

ビッキングサ 最上（東小国）

ヒバリゴ 飽海（松嶺）*

ベッキグサ 最上（及位）、西村山（醍醐、白岩、高松、本郷）、南村山（上ノ山）、山形

ベッキングサ 最上（大藏）、西村山（柴橋）、南村山（堀田、瀧山）

マルコ又は**マリコ** 飽海（日向、大沢、観音寺、西荒瀬、本楯、東平田、北平田、中平田、南平田、松嶺、上郷）、酒田、東田川（余目、新堀、廣野、大和、八栄里、長沼、押切、横山、渡前、藤島、廣瀬、斎、黒川、山添、本郷）、鶴岡、西田川（西郷、大山、大泉、湯田川、田川、上郷）、東置賜（和田）

マルバ 西田川（袖浦、湯田川、温海）

参考までに山形縣以外の府縣のオーバコの方言を次に附記する。（縣名の次の括弧内は郡又は市の名）

アンバコ 長野（佐久）

ウシノヒタイ 静岡（庵原）

エンバク 静岡（小笠）

オーバクは又**オーボク** 静岡（加茂）

- オコンパ** 静岡 (磐田)
オスモーサン 静岡 (静岡)
オバコ 静岡 (沼津, 駿東, 志太, 磐田, 浜名)
オンバク 静岡 (賀茂, 田方, 庵原, 静岡, 安倍, 志太)
オンバコ 新潟 (刈羽), 埼玉 (秩父), 静岡 (田方, 駿東, 富士, 庵原, 清水), 熊本 (人吉)
ガイロツパ 岩手 (下閉伊), 静岡 (駿東, 庵原, 周智, 磐田, 浜松), 長野 (北佐久)
カエロツパ 静岡 (賀茂, 駿東, 富士, 庵原, 清水, 静岡, 安倍, 志太, 榛原, 小笠, 周智, 磐田, 浜松, 浜名, 引佐)
ガエルッパ 青森 (津軽), 福島 (安積, 田村)
キリコ 又は **キリンコ** 青森 (東津軽)
ゲーロツパ 静岡 (浜名), 長野 (北佐久)
ゲールッパ 新潟 (刈羽, 中蒲原, 西蒲原)
シッキリンボ 長野 (北佐久)
シツリコンパ 長野 (北佐久)
シトネコ 青森 (津軽)
ズコバコ 福島 (河沼), 新潟 (新潟)
スモートリグサ 静岡 (静岡), 岡山 (御津)
チドメグサ 長野 (北佐久)
チョクコ 秋田
チョチョレコ 秋田 (河辺)
- チョチョバ** 秋田 (南秋田)
チョチョリバ 秋田 (仙北)
チョポリコ 秋田
チョリバ 秋田 (山本, 南秋田)
チョリチョリバ 秋田
ツンベ 新潟 (岩船)
テリコバコ 秋田 (鹿角)
トリコバコ 又は **トリコパッコ** 秋田 (南秋田)
ナリキッパ 青森 (上北)
ナリゴッパ 青森 (上北)
ニシ 秋田 (南秋田)
ハタオリグサ 静岡 (駿東)
ビッキグサ 秋田 (南秋田), 宮城 (刈羽)
ビッキノハ 秋田 (河辺, 由利), 岩手 (江刺)
フーズイッパ 千葉 (安房)
ホーバコ 又は **ホーバッコ** 静岡 (賀茂, 田方, 駿東, 富士, 庵原, 志太)
マグリッパ 秋田 (仙北)
マルキ 秋田 (平鹿, 雄勝, 田代)
マルギバ 青森 (上北), 岩手 (岩手)
マルグ 秋田 (平鹿), 岩手 (上閉伊)
マルコバ 又は **マルコッパ** 秋田 (北秋田, 山本, 鹿角), 青森 (中津軽, 上北), 岩手 (岩手)
マルバ 秋田 (北秋田), 青森 (津軽)

(2) **フキ** (*Petasites japonica* Miq.) のとうの方言

山形縣の内陸地方では、正しくフキのとうと呼ぶが、多少訛つてフギノド又はホギノドと鼻濁音になつたものが圧倒的に通用しているのに、庄内地方では専らバンケと云う方言で呼ばれている。

このバンケと云う方言は新潟縣岩船郡から庄内地方を通り、秋田縣から青森縣まで廣く分布しているのに、庄内地方から一步内陸に入ると全く通用せず、僅に秋田縣に接する最上郡の一部にバツケが残つてゐるに過ぎないことは分布上注目し得る。

バンケは恐らくアイヌ語からきたもので、アイヌ語でバンケは下、ペンケは上を意味することから、バンケは雪の下の子供と云う意味だとの説をなす人もあるが、少し飛躍しすぎている様に思う。殊に日本海に浮ぶ新潟縣の粟島では対岸の岩船郡と異り、反対語のペンケと呼んで居る事實は、一層その解釈を困難にする。庄内地方では、櫛を入れずにちぢれた乱れ髪のままの女の子の頭をバンケ頭と云うが、このことから、バンケは蚕毛即ち蚕人の毛、紅毛人のちぢれ毛と云う意味だと云う人があるが、これもそう簡単に承服できる説ではない。

何れにしてもこの方言の分布と、過去のアイヌ人の分布とは相関関係があり、アイヌ語に起源を有す

ることは間違あるまい。

筆者の手許にある資料によれば、山形縣に於けるフキのとうの方言の分布は次の通りである。

パンケ 飽海 (吹浦, 日向, 蕨岡, 本楯, 松嶺, 西荒瀬, 中平田, 東平田), 酒田, 東田川 (余目, 長沼, 藤島, 渡前, 大和, 廣野, 東栄, 八栄里, 押切, 新堀, 廣瀬, 泉, 栄, 狩川, 山添, 黒川), 鶴岡, 西田川 (大山, 上郷, 東郷, 加茂, 大泉, 西郷, 田川, 念珠ヶ関)

バッケ 最上 (眞室川, 及位)

他府縣のフキのとうに関する方言を整理すると次の様になる。

ウキノトー 静岡 (賀茂)

オメットー 静岡 (志太)

コゾー 静岡 (田方)

トーガ 静岡 (駿東)

バッカエダツ 青森 (中津軽)

バッキヤ 秋田 (北秋田)

バッケ 秋田 (南秋田, 北秋田, 山本), 青森 (南津軽, 下北)

バンキヤ 秋田 (南秋田), 青森 (津軽)

バンケ 秋田 (由利), 青森 (上北, 三戸)

フキダマ 静岡 (磐田)

フキノオボ 静岡 (駿東)

フキノコ 静岡 (駿東)

フキノコンポー 静岡 (引佐)

フキノジョー 北村山 (富本, 大高根)

フキノド 最上 (萩野, 角川, 八向, 舟形, 東小国, 西小国), 新庄, 北村山 (尾花沢, 宮沢, 亀井田, 玉野, 大石田, 西郷, 大高根, 小田島, 楯岡, 東郷, 東根, 富本, 大久保, 戸沢, 長瀬, 高崎, 山口, 大富), 西村山 (白岩, 高松, 大谷, 谷地), 南村山 (上ノ山), 東置賜 (和田), 南置賜 (万世)

フキノジジイ 静岡 (田方)

フキノトー 正しくこの名で呼ぶのが全国的に普通である。

フキノポー 静岡 (駿東)

フキノース 静岡 (賀茂)

フキバナ 静岡 (志太)

フキメ 静岡 (小笠, 引佐)

フキントー 福島 (田村), 静岡 (縣下各地)

フキンパ 福島 (田村)

フキンポー 静岡 (引佐)

ベンケ 新潟 (岩船郡粟島)

ポーズ 静岡 (志太)

ポコ 静岡 (志太)

ホーキントー 新潟 (刈羽)

此处に一つ附記する必要があるのは、方言調査の際に餘程注意しないと、日常使用する方言と違つたものをつかまされることである。土地の言葉を解する互に顔見知りの者が語る時はよいが、改まつて調査などと云うと、日常とは異つた発音をすることがある。その一例として、パンケがバンカイとなる場合を挙げて置く。この例は莊内地方では屢々遭遇するが、青森縣上北郡でも同様の実例を確認して愉快に思つた。この変化は五十音の同一行を横滑りするもので、他の一例としてはウシノケツペ (牛の擧丸) をウシノカイパイと呼ぶ変化を挙げる事が出来る。この場合もパンケと同様にケが同じカ行のカとなり、ベがバ行を横滑りしてパに變りそれにイが添加されたものである。更にもう一つの例を追加するならば、タイヨー (太陽) が時にタイユーと発音されることがある。

(3) スギナ (*Equisetum arvense* L.) の方言

スギナの方言を取扱う場合には、その生殖器官であるツクシ (土筆) と、栄養体だけの狹義のスギナ (杉菜) とを区別する必要がある。

まづ土筆を対象とした方言としては、ツクツクシ、ツクベ、ツクボ、ツクシ、ベツペノコ、ツポポ、ヅキンポー、グツツベ、ヂツクベ、ヂツコベ、ツツクビ、ツツコベ、ツツコンベ、ツツコンボ、ジジク

ボ、等があり、杉菜を対象としたものには、ウマノソーメン、ソーメングサ、ソーメンコ、ツギンクサ、ツギクサ、ツナギグサ、ツミツミ、スギグサ、スギナ、スギナグサ、スギナツコ、スギネグサ、ホタルグサ、ホタルソー、シヨークサ、テンクサ等がある。

杉菜を対象とした方言の語源は比較的簡單で、全体の感じに起因するスギナ、スギナグサの類は説明を要しない。ツギクサ、ツナギグサ、ツミツミの類は、莖を節の所で一応切り外してから再び差込んで原形に戻し、何処で継いだかを相手にあてさせる子供の遊びから起つた方言で、同様の遊びに用いられるアスナロにもツミツミとかツベツベとかの方言がある。ソーメングサの類は全体の形からきたもので、合点がゆく方言である。ホタルグサは螢籠の中に入れる草と云う意で、莊内地方でホタルグサの方言で呼ばれるものはスギナばかりでなく、アスバラガスやツユクサも含まれている。シヨークサはスギナを石で叩きつぶして絞りとつた汁を子供が飯事遊びに醬油として使う爲の局部的方言であり、テンクサも子供がネギの中につめて突き出し、ところてんと見立てて遊ぶことに起因するものである。

土筆を対象とするものでは、ツクシ、ツクツクシ、ツクベ、ツクボは一連のものである。ベツペノコは男性の生殖器に似ていることを意味する方言で、北村山郡の中部に通用するが、同様な起源のものに秋田縣のネコノカモコや福島縣のネコノチンボがある。次はデツコベ、ツツコベの系統であるが、これはどうも語源がはつきりしない。その分布は山形縣では莊内地方に限られているが、秋田縣には多数の同系語(デクビ、デクベ、ツクベ等)がある。

筆者の手許にある調査表によると、山形縣のスギナの方言は次の通りである。

ウマノソーメン 西田川(温海、福栄)	酒田、東田川(山添、黄金、黒川)、鶴岡、西田川(大泉)、最上(八向)、北村山(大石田、楯岡、大富)
オトコツクヅクシ 鶴岡	
オトコツッコベ 鶴岡	ツクベ 飽海(観音寺、一條、田沢、上郷、東平田)、東田川(余目、狩川、清川)、西田川(念珠ヶ関)
グツツベ 飽海(上田、本楯、中平田)、酒田	ツクボ 東田川(長沼)、西田川(袖浦)
シヨークサ 最上(眞室川)	ツギクサ 又は ツギグサ 飽海(田沢)、酒田、東田川(栄)、西田川(大泉)、北村山(宮沢、長瀬、楯岡、東根、富本、大久保、東郷、戸沢、小田島、大高根、大石田、大倉、亀井田、大富)、西村山(白岩、高松、大谷、谷地、本郷)、南村山(上ノ山)、南置賜(玉庭)
スギグサ 北村山(玉野)	ツギンクサ 北村山(楯岡、東郷、大久保)
スギナ 最上(及位、舟形、東小国)、北村山(尾花沢、亀井田、大高根、東郷、山口、高崎)、東置賜(和田)	ツキンボー 東田川(廣瀬)
スギナグサ 飽海(内郷)	ツクビ 最上(大藏)
スギナンコ 東田川(山添)	ツッコベ 飽海(本楯、松嶺)、鶴岡、東田川(藤島、余目、泉、東栄、本郷)
スギネグサ 飽海(高瀬)	ツッコンベ 東田川(長沼)
ソーメングサ 飽海(東平田)、最上(萩野)	ツッコンボ 東田川(横山)
ソーメンコ 最上(萩野)	ツナギングサ 北村山(山口、小田島)、西村山
デデクボ 東田川(横山)	
デックベ 飽海(本楯)	
デッコベ 東田川(藤島、廣野、大和、八栄里)、西田川(福栄)	
ツクシ 最上(西小国)、新庄、山形	
ツクツクシ 飽海(吹浦、高瀬、遊佐、西荒瀬)	

(柴橋)

ツボボ 東田川 (廣瀬)
 ツミツミ 東田川 (新堀)
 テンクサ 北村山 (楯岡, 宮沢)
 ベッペノコ 北村山 (楯岡, 小田島, 東根, 長瀬)

ホタルグサ 飽海 (本楯, 観音寺, 南平田, 上郷, 南遊佐, 吹浦), 酒田, 東田川 (藤島, 横山, 狩川, 清川, 渡前, 大和, 新堀, 泉, 栄), 西田川 (田川, 湯田川, 山戸), 最上, 大藏, 北村山 (大久保)
 ホタルソー 飽海 (日向, 南遊佐)

参考までに手許にある他府縣の方言資料を次に一括して掲げる。

イシャノチンボ 新潟 (刈羽)
 イノチンボ 長野 (佐久)
 ウマノサト 秋田 (北秋田), 青森 (津軽), 岩手

ツクシンボ 千葉 (安房)
 ツクシンボ 静岡 (浜名)
 ツクツクシ 青森 (津軽)
 ツクツクボシ 静岡 (志太, 磐田)

(上閉伊)

オクンボ 静岡 (周智, 磐田)
 カッチンボ 静岡 (富士)
 カモグサ 秋田 (北秋田)
 ガンノカモ 秋田 (北秋田)
 キツネノタバコ 新潟 (西蒲原)
 サトウグサ 青森 (東津軽)
 シイナグサ 岩手 (上閉伊), 長野 (北佐久)

ツクツクボシ 福島 (田村)
 ツクベ 秋田 (仙北, 由到)
 ツクボ 静岡 (磐田)
 ツクボシ 静岡 (小笠)
 ツクンボ 静岡 (小笠, 周智, 磐田, 引田)
 ツクンベ 秋田 (平鹿, 雄勝)
 ツベノコ 秋田 (仙北)

シナグサ 青森 (上北)
 スギコグサ 秋田
 スギナグサ 秋田, 長野 (北佐久)
 スゲナ 青森 (南津軽)
 スゲナクサ 秋田 (由利)
 スナグサ 青森 (東津軽, 上北)

ツメキ 長野 (佐久)
 ズンツクシ 静岡 (富士, 静岡, 安倍, 引佐)
 ズンツクボシ 静岡 (榛原, 小笠, 磐田, 浜松, 引佐)

ヂクビ 秋田
 チクベ 秋田

ツギツギオンボ 静岡 (榛原)

ツギナ 長野 (佐久), 岡山

ツクシ 青森 (南津軽), 胞子体をツクシと呼ぶのは全国的であるが, 栄養体を含めてツクシと呼ぶ所も可成に多い。

ツクシ 静岡 (周智, 磐田, 浜名, 引佐)

トケイグサ 長野 (佐久)

ドコドコツイダ 岡山

ネコノカモコ 秋田 (北秋田)

ネコノチンボ 福島 (会津)

ネコノベッペ 宮城 (牡鹿)

ボースグサ 新潟 (新津)

ボンボングサ 新潟 (刈羽)

マツバグサ 熊本 (人吉)

モツクサ 青森 (上北)

ヤネヤノチョンボ 新潟 (刈羽)

終にこの調査に多数の資料を寄せられた山形縣内各地の学校の先生方並に山学大学の学生諸君, 池上義信, 岩野俊逸 (新潟), 小林勝 (福島), 浅野貞夫 (千葉) 其他の諸氏に厚く感謝の意を表する。

参 考 文 献

- 1) 三矢宮松: 莊内語及語釈 (1930)
- 2) 佐藤邦雄: 佐久の植物方言 (1950)
- 3) 佐藤正己: 山形縣莊内地方の植物方言に就いて (山形縣立農専研究報告 3, 1-49, 1950)
- 4) 鷹巢農林植物同好会: 秋田の植物方言 (1930)
- 5) 内田武志: 静岡縣方言誌, 動植物篇 (1936)
- 6) 青森營林局: 三陸植物誌 (1935)
- 7) 桂 又三郎: 岡山動植物方言圖譜, 草類之部 (1932)